

東公民館

第27回鶴吉大運動会を開催

鶴吉公民館主事

高藤 邦昭

鶴吉大運動会が産声を上げたのは、昭和52年子どもの日です。この年は、王貞治がホームランの世界記録756本を達成した年です。

この年から毎年計画・準備を継続してきた先輩の努力はもちろん、運動会を盛り上げる参加者の郷土愛は、他の地域に勝るとも劣ることはありません。

今年も、あいにくの雨でした。でも大丈夫。体育館での開催です。約200名の老若男女に参加していただきました。今年のスローガンは「進んで参加みんなで楽しくさわやかに」としました。

役員には午前7時から準備



▲息を合わせてイチ！ニ！

4時間ほどで20のプログラムをこなすわけですから、裏方さんは大変です。ハプニン

戦をしています。九つの小組合を3グループ(赤・黄・青)に分けて対抗

と願いました。九つの小組合を3グループ(赤・黄・青)に分けて対抗戦をしています。4時間ほどで20のプログラムをこなすわけですから、裏方さんは大変です。ハプニン



▲落ちないように急ぐのは難しい！

をしていただき、放送係は女子中学生に協力してもらい、若々しい声が響きました。

また、選手宣誓は、小学生の男女二人でした。小・中学

生、特に中学生が地域活動に参加することによって、郷土への愛着を抱き、将来の鶴吉を担ってもらうようになれば、と願いました。

九つの小組合を3グループ(赤・黄・青)に分けて対抗戦をしています。

4時間ほどで20のプログラムをこなすわけですから、裏方さんは大変です。ハプニン



▲ねらいさだめて、それっ！

グもいろいろありました。老人クラブ対小学生低学年以下の玉入れゲームでは、老人パワー炸裂によって玉がなくなつたこと。また、得点競技でトップを進行していたチームが、突如最下位になりました。どうも各チームの競技人数が揃っていないかったらしいのです。勝負にこだわらない寛大な理解によって、事なきを得たことなどなど。

しかし、最後は、全員が「鶴吉音頭」「松前音頭」を輪になって踊り、地域の和を深めることができました。とはいえ、行事運営も曲がり角にきており、改革の必要性の声も上がっています。参加していただいた地域の皆さん(特に中学生の皆さん)、ありがとうございました。

補導センターだより

地域の支え

北伊予小学校

山本 茂

北伊予小学校では、全校児童444名の全員が、自分らしさを発揮しながら、明るく、楽しく、充実した学校生活を送れるよう、全教職員が一丸となって、子どもに接していることと努力しています。子どもたちがこのような学校生活を送れるのは、学校の力だけではありません。北伊予校区では、実に多くの方々が子どもたちの学校生活を支え、見守ってくださっています。

毎朝、信号機のある横断歩道へ自主的に立って子どもたちの登校の様子を見守ってくださっている方、また、子どもと一緒に学校まで歩いて来てくださり、通学班での子どもたちの様子に気を配っていただいている方、夜遅く、北伊予校区を巡視していただいている補導員や協働員の方々。田植えの仕方や昔の遊び方を子どもに教えてくれているお年寄りの方々など。ある方は新しく班長となつた子どもに、

「この信号機は、青から赤にかわるまでに、15秒しかないから気をつけるんよ。」

と、ていねいに指導してくださっています。また、登校してくる子どもたちの顔と名前をしつかりと覚え、毎朝、温かい一言をかけてくださったり、様子がおかしい子どもや、トラブルが起こった通学班があると、学校へ情報を入れてくださったりします。おかげで、子どもたちのちょっとした様子の変化に、早め早めの対応ができています。

6月に入り、朝、登校中の子どもたちの中に、不審な青い車から花火のような物が投げ込まれるという悪質な行為が、連続して起こりました。そのような時にも、PTAや愛護部を中心に朝の見回り体制がすばやく整い、子どもたちの安全を守ってくださいました。北伊予小学校校区では、地域の宝である子どもたちを、みんなの手で守っていこう、育てていこうというすばらしい環境にあるんだな、と生徒指導という立場になって改めて実感しています。

そのようなあなたがかい地域に生まれ、子どもたちは今日も元気にがんばっています。